

1. 房総の偉人

ここに掲げた人々は、県が昭和38年以降選定した、県民ひとりひとりに
とって忘れることのできない郷土の偉人・先覚者の20人です。（生年順によります。）

ち ば つね たね
千葉 常胤（1118～1201）
千葉氏最盛期の猪鼻城主。源頼朝を助け鎌倉幕府樹立に大功。

にち れん
日 蓮（1222～1282）
安房郡天津小湊町（現鴨川市）出身。日蓮宗の開祖。「立正安国論」を説いた人。

ひし かわ もろ のぶ
菱川 師宣（不詳～1694）
安房郡鋸南町出身。浮世絵版画の創始者。

だい ご しん べえ
醍醐 新兵衛（初代・定明）（1632～1704）
捕鯨の父。安房郡勝山で代々捕鯨に従事。

あお き こん よう
青木 昆陽（1698～1769）
山武郡九十九里町と千葉市花見川区幕張町で甘藷を試作し、その普及に努め、
大凶作から人々を救った。

い のう ただ たか
伊能 忠敬（1745～1818）
山武郡九十九里町出身。18歳にして佐原の伊能家を継ぐ。
日本最初の実測地図を完成した人。

おお はら ゆう がく
大原 幽学（1797～1858）
世界最初の産業信用組合をつくり、農民教育と農村改革を実践した。

さ どう たい ぜん
佐藤 泰然（1804～1872）
新しい外科手術や種痘など、近代医学の先駆者。

ほつ た まさ よし
堀田 正睦（1810～1864）
佐倉市出身。佐倉藩主。幕末の進歩的的老中として明治開化に多大の貢献をした。

さ どう しゅん かい
佐藤 舜海（1827～1882）
香取郡小見川町（現香取市）出身。医家順天堂病院を創立。
東京大学医学部前身の大学東校主宰者。

にし むら しげ き
西村茂樹 (1828～1902)

佐倉市出身。佐倉藩の執政。明六社をおこし進歩的文明評論で世を指導「国語辞典」「古事類苑」を編さん。

しば はら やわら
柴原和 (1832～1905)

千葉県初代県令。当時の日本三県令の一人。教育に力を入れ、千葉大学医学部の基礎をきずいた。

さとう しづ
佐藤志津 (1851～1919)

佐倉市出身。情熱の女子教育家。東京女子美術学校初代校長。佐藤高等女学校を設立。

つぼ い げん どう
坪井玄道 (1852～1922)

市川市出身。教育家。学校体育の基礎を確立した人。

いし かわ くら じ
石川倉次 (1859～1944)

市原市南総出身。教育家。フランスの盲人ルイ・ブライユの考案した点字を50音式に翻案した人。

いとう さちお
伊藤左千夫 (1864～1913)

山武郡成東町(現山武市)出身。近代歌壇の巨匠。短歌「アララギ」の発刊を主宰。

つだ うめ こ
津田梅子 (1864～1929)

女子教育の母。わが国最初的女子米国留学生となる。今日の津田塾大学を創立した。

しら とり くら きち
白鳥庫吉 (1865～1942)

茂原市出身。歴史学者。東京大学名誉教授。「満州歴史地理」「朝鮮歴史地理」をあらわした。

すず き かんたろう
鈴木貫太郎 (1867～1948)

東葛飾郡関宿町(現野田市)出身。海軍大将。第2次世界大戦終末時の首相。

くにきだ どっ ぽ
国木独歩 (1871～1908)

銚子市出身。詩人。作家。自然主義文学の重鎮。「武蔵野」「牛肉と馬鈴薯」等の著書がある。